

# あすならホーム今小路

## グループホーム

### 運営推進会議【25年度サービス評価振り返り】

開催日時	令和 8年3月23日(月) 13:00~13:30
開催場所	場所：あすならホーム今小路 サロン
運営推進 会議メン バー 参加者	<p>【利用者ご家族】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・グループホームご家族様：阿部様・植田様・島様</li><li>・多機能型ケアホームご家族様：大野様・岡本様</li></ul> <p>【地域代表】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自治会長：飯田様</li><li>・自治副会長：吉田様</li></ul> <p>【市・包括職員】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・若草地域包括支援センター：金繁様</li></ul> <p>【地域の方】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まちかどネット：前田様</li></ul> <p>【あすならホーム今小路職員】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・施設長：安部</li><li>・グループホーム 管理者：加藤</li><li>・多機能型ケアホーム 管理者・CM：吉田</li></ul>
内容	<ol style="list-style-type: none"><li>1.施設長挨拶</li><li>2.グループホーム内部評価・目標計画 報告</li><li>3.意見交換</li><li>4.総括</li></ol>
<p><b>1. 安部施設長挨拶</b></p> <p><b>趣旨：</b>年に1回、グループホームおよび小規模多機能の職員・家族・地域住民が集まり、運営の透明性を高め、地域に開かれた事業所を目指すための話し合いを行う。</p> <p><b>方針：</b>「お世話型の介護」から「自立支援・本人の意向に沿ったケア」への転換を図る。人手不足等の課題はあるが、やりがいのある仕事として運営を深めていきたい。</p> <p><b>2.グループホーム内部評価・目標計画 報告</b></p> <p>【内部評価による課題と反省点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ケアの根拠不足：現場職員が「なぜこのケアを行うのか」という根拠（エビデンス）を十分に持たずに業務に当たっている場面がある。</li><li>・個別性の欠如：ケアプランが定型文になりがちで、利用者一人ひとりの「何がしたいのか」という個別性が十分に反映されていない。</li><li>・情報共有の遅れ：ケアマネジャー不在期間の影響もあり、現場とケアプランの共通認識にズレが生じていた。</li></ul>	

- 地域交流： 外出機会は増えたものの、地域住民との深い交流や、地域行事への主体的な参加はまだ不足している。  
【次年度の目標達成計画（重点取り組み）】
- 個別ケアの質の向上と ICT 活用：  
記録ソフト「ケアコラボ」を活用し、全職員がいつでもタブレットで最新のケアプランを確認できる体制を整える。  
「ミニケア会議（15分程度）」を定例化し、現場の気づきを迅速にプランへ反映させる。
- 認知症ケアの専門性強化：  
施設内でのミニ学習会や認知症研修をこまめに開催し、職員全員が同じ視点でケアに当たれるようにする。
- 地域社会との関わり促進：  
「お花見（4月）」を皮切りに、年間の外出・行事スケジュールを明確化する。神社の清掃活動への継続参加、近隣の保育園・小学校との交流機会を創出する。

### 3.意見交換

#### • 地域住民

「この施設ができる際も反対はなく、むしろ喜ばれていた。血压測定や入サロンの開放など、地域に貢献してくれており、温かく見守っている」  
「小規模多機能とグループホームの違いが分かりにくい」

⇒ 小規模多機能は「通い・泊まり・訪問」を組み合わせ、自宅生活を継続するための施設。グループホームは認知症の方が「共同生活」を送る住まいの拠点。「家に帰るための支援」である小規模多機能の役割を、地域の困りごと相談（ゴミ出しの不安等）と絡めてもっと周知していく。

#### • 家族

「地域の方と面識を持つことで何を目指しているのか（会議のゴール）」  
⇒ 介護保険の理念に基づき、施設に閉じ込めるのではなく「地域住民の一人として暮らし続ける」ための規範を地域と共に作ることが目的。  
「会議の種類（内部・外部等）が多いため、整理された一覧表（組織図や会議体系図）を作成してほしい。」  
⇒ 会議や活動内容を一覧化した資料の作成を検討する。

### 4.総括

地域の方が「ちょっと見に行く、遊びに行く」ことができる機会を作る。  
今後 2 ヶ月に 1 回のペースで運営推進会議を開催し、今回出た「地域に情報を開くための工夫」を順次実行していく。

- つながり連絡員制度の再構築： 職員一人が地域住民一人と定期的につながりを持つ仕組みを徹底し、新人職員にも教育を行う。
- 地域名簿と地図の整理： 地域住民の名簿を整理し、地域のどこにどのような資源があるかを可視化したマップを作成する。

- **情報開示の強化：** 運営推進会議の定例化（2ヶ月に1回）とともに、活動報告を積極的に行い、地域に開かれた運営を行う。
- **サロン・行事への参加促進：** 地域の業のつく日のサロンや音楽サロンなど、既存の地域コミュニティへの利用者・職員の参加を増やす
- **地域行事への主体的参加：**  
4月のお花見など、外出機会を年間スケジュールに組み込み、定期的な外出を促進する。  
自治会から提案のあった「神社の清掃活動」に利用者と一緒に参加し、地域社会への貢献と交流を図る。
- **地域資源の活用と交流：**  
近隣の保育園や小学校へ足を運び、多世代交流の機会を広げる。  
美容室など、利用者が以前から利用していた地域資源とのつながりを継続できるように支援する。
- **ケアプランへの反映：**  
ICT（ケアコラボ）を活用し、本人の「やりたいこと」や地域での暮らしの目標を全職員で共有し、日々のケアに反映させる。  
本人の住んでいる地域の環境を把握し、個別の生活背景に基づいた外出支援を強化する。

以上